

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人 やまなみ会

(施設名)福祉サービスセンターほっと館

居宅介護支援事業所

通所介護事業所

目次

I	はじめに	1
II	全体状況報告	
	1 重点項目（目標）に対する報告及び考察	
	2 県及び村補助事業	
	3 職員状況（人員、資格取得、研修等）	1
	4 防災・防火訓練報告	
III	個別事業報告	
	1 居宅介護支援事業所	
	（1）事業の取組み	2
	（2）課題・次年度への提起	
	2 通所介護事業所	
	（1）事業の取組み	3
	（2）課題・次年度への提起	
	3 産山村委託業務	
	（1）事業の取組み	4
	（2）課題・次年度への提起	

I はじめに

昨年5月には新型コロナウイルス感染症は5類へと移行し、利用者も徐々に増え感染対策を継続しながらサービス提供を進めてまいりました。また、居宅介護支援事業所については、職員の増員を行い利用者獲得に向け体制の強化を図りました。今後も、利用者が安心して住み慣れた地域での生活を続けられるよう取り組んでまいります。

II 全体状況報告

1. 重点項目（目標）に対する報告及び考察

安全で安心できる質の高い介護サービスを提供し、職員の技能・知識の習得と向上を図るため外部研修等への参加を推進しました。利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ちながら利用者の状態に適したサービスを提供し、安定した在宅生活が送れるように自立支援と生活の質の向上を図れるサービスを提供してまいります。

2. 県及び村補助事業

新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に加え、物価高騰の影響を受けて費用が増加している高齢者施設等の負担軽減を図る目的で熊本県や村から支援を受け、施設運営のための燃料費や食材費の補填を行いました。

- ・熊本県高齢者施設等物価高騰対策支援金 133 千円
- ・高齢・障害者施設等に対する食材高騰対策支援補助金 90 千円
- ・産山村事業所エネルギー等価格高騰対策支援事業給付金 60 千円

3. 職員状況（人員、資格取得、研修等）

（1）人員

事業所等	職員数	有資格者数
施設長	1 (1)	
居宅介護支援事業所	4 (2)	介護支援専門員 4 (2)
通所介護事業所	7 (3)	介護福祉士 2 看護師 3 (2)
通所 厨房	2 (1)	
軽度支援員	1 (1)	
外出支援 運転手	2 (2)	福祉車両 2 (2)
計	17 (10)	11 (6)

() は内数で非常勤及び嘱託職員の数 令和 6. 3. 31 現在

(2) 資格取得及び研修について

外部研修課（対面、オンライン）

研修日	研修内容
令和5年6月	熊本県介護支援専門員阿蘇支部研修 (人生をしまう時)
令和5年10月	(共に生きる～認知症について)
令和6年3月	(認知症のかたへのアセスメントとケアプラン)

内部研修（オンライン）

研修日	研修内容
令和5年9月	ハラスメント防止

4. 防災・防火訓練報告

年2回の消防訓練の実施と緊急連絡網による伝達の訓練を実施しました。

さらに緊急時の防災・風水害対策について職員研修を実施し緊急時における防災対策の意識向上に努めました。また、避難経路や消火設備の点検を行い非常食の備蓄管理を行い随時補充しました。

期日	内容	備考
令和5年6月30日	自衛消防訓練	通報訓練・避難訓練
令和5年12月6日	自衛消防訓練	通報訓練・避難訓練

期日	内容	備考
令和5年9月13日	消防用設備等点検	点検業者オオノ防災
令和6年3月7日	消防用設備等点検	点検業者オオノ防災

Ⅲ 個別事業報告**1. 居宅介護支援事業所****(1) 事業の取り組みについて****① 介護を必要としている方へ迅速・適切なサービス提供**

- ・産山村包括支援センター及び産山村健康福祉課からの情報収集と情報交換は適切に行なうことができた。
- ・民生委員会議で、一人暮らしの方や高齢世帯の状況等把握を行った。
- ・村の専門者会議（地域ケア会議）における、事例検討会では、ケアプランを提出し各専門分野からの助言や意見等を聞き、ケアプランに反映する事ができた。

- ・なでしこの里や四季の杜と情報を共有し、迅速なサービスの提供を行うことができた。

② 総合支援事業の業務の円滑化

- ・産山村における総合支援事業については、村との情報交換を十分行い対応できた。また、総合事業を利用する中でサービス低下が起こらないよう、村と協議を行ない対応することができた。
- ・通所介護事業所等と連携し、村独自のサービスである食の自立支援や外出支援サービス等を活用することで、在宅生活の前提である調理、買い物などの自立した生活ができるよう支援を行うことができ、高齢者の在宅生活の安定につながった。

③ 利用状況

- ・本年度年間延べ1200件（前年度965件）のケアプラン作成業務をおこなった。月平均にすると100件（目標70件）、介護予防居宅サービス計画・総合事業サービス計画16件（目標20件）となった。

（2）課題・次年度への提起

要介護者の増加や介護の担い手不足など、高齢者福祉をとりまく環境は厳しさを増している。事業所としても、今ある社会資源の活用や他の事業所等との連携を行い、利用者の自立支援・重度化防止に努めていくことが必要である。

2. 通所介護事業所

（1）事業の取り組みについて

① 利用者の獲得を目指すための取り組み

- ・コロナ感染症対策のため、外出行事は中止となったが年間行事計画に沿い、毎月の誕生会や季節を感じる壁画作成やレク・行事などを企画・提供できた。
- ・クラブ活動（手芸・カラオケ・園芸）の充実を図ることで、利用者様の意欲向上に繋げ、利用しやすい環境作りをおこなった。

② 利用者の心身の維持・向上を目指すための取り組み

- ・利用時の健康チェック・入浴時の身体観察、日中の様子観察に努め、利用者様の心身の異常の早期発見・早期対応ができた。
- ・外部のリハビリの先生と連携し、利用者に合わせて心身機能の維持・向上を図る機能訓練を提供できた。

③ その他の取り組み

- ・コロナウイルス感染防止対策のため保育園児や子供ヘルパーなどの地域交流は実現できなかったが、学園が実施している職場体験で生徒を3

日間受け入れた。また、敬老会やクリスマス会のイベントは通密にならないよう数日間に渡り通常のプログラムの中で実施した。

- ・広報やほっと館通信等により、館内での利用者の様子・活動内容などを村民やご家族に知らせることができた。

④ 利用状況

- ・年間利用延べ人数状況（定員 25 名）
年間延べ利用者数 4,502 名で前年度と比較すると 111 名の増となった。

(2) 課題・次年度への提起

今後も高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため介護、医療、生活支援、介護予防の充実が必要となる。外部の専門職とこれまで以上に連携し、リハビリの充実を図り趣味活動や感染症予防に配慮した行事を行うなど、利用者の介護の重度化を防ぎより良い在宅生活を継続できるよう支援していきます。

更に、コロナウイルスが 5 類に移行され感染状況が比較的に落ち着いた事から、感染予防を徹底した上で、外出や外部との交流を積極的にすすめてまいります。

3. 産山村委託業務

(1) 事業の取組み

事業名	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
外出支援(市内)	606 (105)件	723 (92)件	926 (153)件
配食サービス	1,312 食	1,194 食	1,282 食
輝き教室	49 回	35 回	14 回
相談業務	38 件	39 件	37 件
委託料	6,356,460 円	7,523,180 円	7,366,360 円

(2) 課題・次年度への提起

村の委託事業は、介護保険ではカバーしきれない利用者への生活支援として重要な位置づけがなされている。さらに、相談業務等により地域住民の実態把握や関係機関と情報の共有化を図り、介護が必要な方への迅速なサービス提供へとつなげていきたい。